



新澤醸造店 川崎蔵

- 本社所在地：宮城県大崎市三本木
- 事業概要： 及びリキュールの製造及び販売
- 常時使用する従業員：39名（2025年6月時点）
- 現在の売上高：15億円（2024年9月期）
- 法人番号：2370201000339
- Web： <https://niizawa-brewery.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
新澤 巖夫

唯一無二の超高価格清酒を世界へ

創業1873年の新澤醸造店は、「愛宕の松」と「伯楽星」を中心に、“究極の食中酒”を追求し続けてきた日本酒蔵です。近年では、品質の高さが国内外で評価され、「世界酒蔵ランキング」で3年連続世界1位を獲得。過去10年にわたり、高価格帯プレミアム清酒市場の開拓を牽引してきました。次なる挑戦は、有機JAS米を使った唯一無二の超高価格日本酒で世界のテーブルを魅了することです。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

本事業を通じて2032年に年商38億円、2039年には100億円の達成を目指します。有機JAS米による高付加価値商品の展開と海外プレミアム市場の開拓を進め、将来的には売上の6割を海外市場で構成する体制を構築します。

課題

- ・高価格帯日本酒の海外市場での展開力強化
- ・出荷スペース・冷蔵庫・資材置き場の拡充による物流機能の整備
- ・既存商品の生産性向上と高付加価値商品への人材シフト強化
- ・高価格帯商品の安定供給に向けた出荷体制の確立

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・国内取引先の新規開拓と取引深耕による販売網の拡充
- ・輸出国数の拡大と地域特化型展開による海外市場の強化
- ・有機JAS米を使用した超高価格日本酒を開発し、インバウンド需要や海外富裕層に向けて展開
- ・海外コンペティションを活用したブランド力向上と現地市場の嗜好調査
- ・既存商品の増産体制の整備と、省力化による生産性向上

実施体制

- ・買収済みの既存蔵隣接倉庫に出荷事務所および出荷スペースを移設し、効率的な出荷体制を構築（2026年内予定）
- ・製造量の増加に対応するため、製品専用の冷蔵庫を新設し、品質管理体制を強化（2026年内予定）
- ・最新型ラベリング設備を導入し、生産工程の省力化と作業効率の向上を実現（2026年内予定）
- ・有機米専用の精米機を導入し、JAS認証表示が可能な製造体制を整備（2026年内予定）

売上高100億円実現の目標と課題

【年商100億円に向けた商品展開・販売戦略タイムライン】

■ 2025～2026年：生産体制の整備と下準備

有機JAS米専用精米機、自動ラベラー、出荷設備の導入
 出荷体制・冷蔵設備・事務所の整備（出荷場移転）
 精米・梱包ラインの自動化による省力化と生産性向上
 海外コンペティション出品による市場ニーズの分析強化

■ 2027～2028年：試験販売・ブランド強化

有機JAS転換期間米を活用した商品をテスト販売開始
 コンペ受賞歴の蓄積とメディア露出を通じたブランディング
 国内高価格帯市場・インバウンド消費層への導入展開

■ 2029年～2030年：有機JAS日本酒の商品化・本格販売開始

有機JAS認証取得後、有機JAS認証マーク付き超高価格日本酒を投入
 国内外の高級市場（富裕層・高級ホテル・専門店）への本格展開
 海外出荷体制と品質保持物流（蔵直）の運用開始

■ 2031～2034年：高価格帯商品ラインの多様化と輸出拡大

地域別・価格別での商品展開（アジア・欧州・北米など）
 輸出国数の拡大と売上比率の海外6割へのシフト進行
 日本酒の年間生産量増加とオペレーター人材の育成完了

■ 2035～2039年：年商100億円への到達と定着

海外売上60億円規模の確立（プレミアム市場中心）
 国内での高級路線と限定品シリーズの販売強化
 有機×超高価日本酒の国際的ブランド定着
 100億円体制を支える持続的販路・生産基盤の完成

